

厚生科学審議会 感染症分科会 予防接種部会
2010年5月19日

感染症サーベイランス 予防接種率調査 予防接種副反応調査 ～臨床サイドから～

福岡市立西部療育センター
センター長(小児科)
宮崎千明

感染症サーベイランス

- 小児科外来患者の多くは、発熱、発疹、咳、鼻水、下痢、嘔吐などを訴える感染症患児である。
- 感染症の診断には臨床症状、検査のみならず、流行情報、予防接種歴が重要である。
- 小児の臨床検査は容易ではないので、具体的な病原体の流行情報は非常に有用である。
- 局地的流行と全国的な流行の両方が情報として必要である。
- 感染症発生動向調査だけでなく、病原微生物検出情報や血清疫学情報も極めて重症である。

福岡県の感染症発生動向調査 福岡県医師会ホームページから(1)



社団法人

福岡県医師会

FUKUOKA PREFECTURE MEDICAL ASSOCIATION

サイト内検索

→ サイトマップ

→ お問い合わせ

☒ トップ

☒ 県民の皆様

☒ 医師の皆様

☒ アクセス

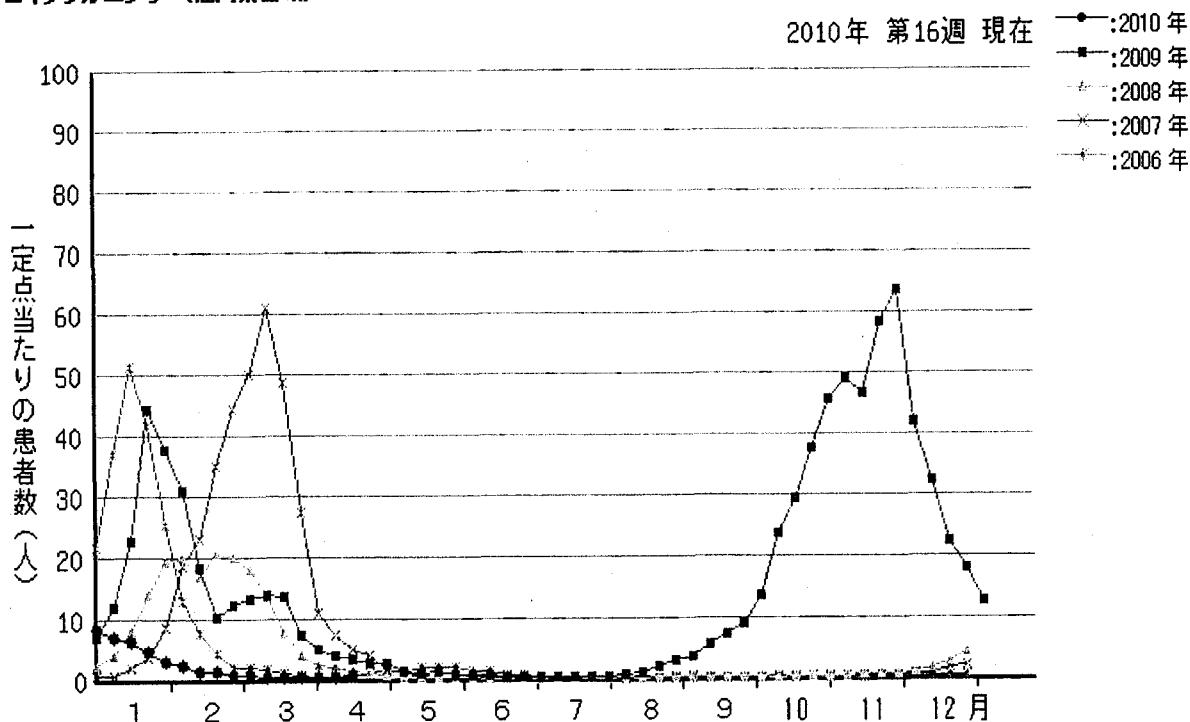
☒ リンク

☒ 会員専用

病名	報告数	前週比	主な増加地区等	1定点当たりの患者数	
				福岡県	全国
インフルエンザ	74	190%	福岡66、筑後5	0.37	0.14
RSウイルス感染症	17	77%	福岡14、北九州2	0.14	0.22
咽頭結膜熱	37	137%	福岡22、筑後10	0.31	0.18
A群溶連菌咽頭炎	209	130%	福岡108、北九州49	1.74	1.36
感染性胃腸炎	1381	102%	福岡631、筑後327	11.51	8.99
水痘	293	99%	福岡141、北九州84	2.44	1.65
手足口病	68	131%	福岡33、北九州20	0.57	0.55
伝染性紅斑	51	170%	福岡41、筑後6	0.43	0.26
突発性発しん	111	96%	福岡53、筑後24	0.93	0.61

福岡県の感染症発生動向調査(2)

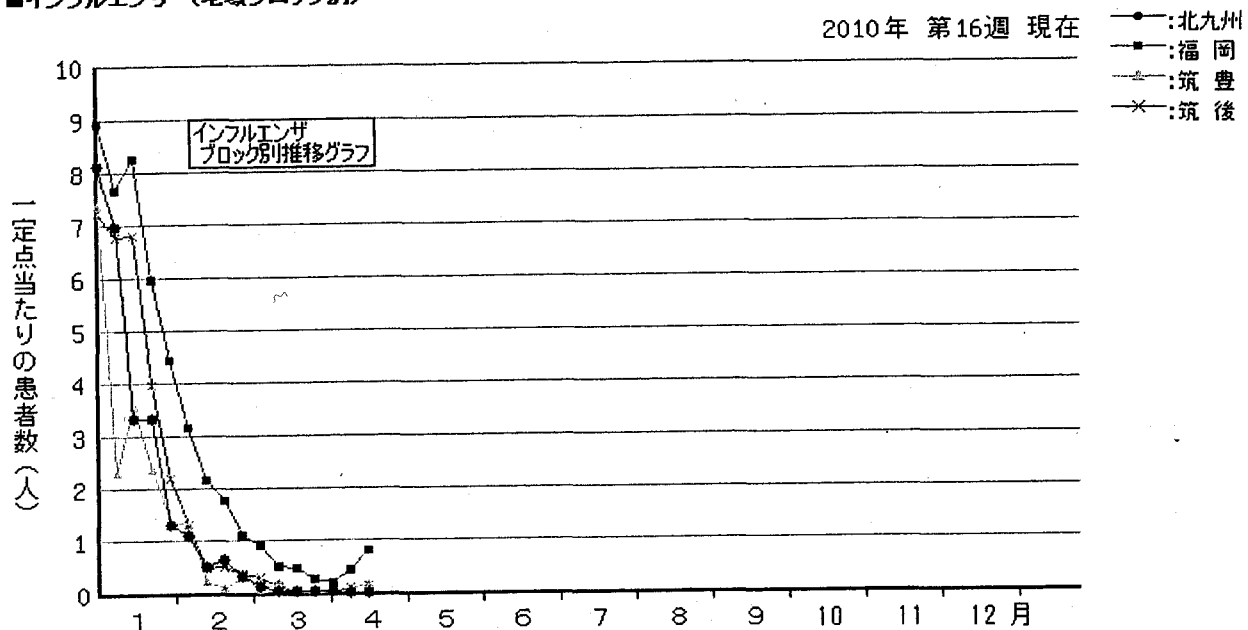
■インフルエンザ (福岡県全域)



福岡県の感染症発生動向調査(3)

県内地域別発生数

■インフルエンザ (地域ブロック別)

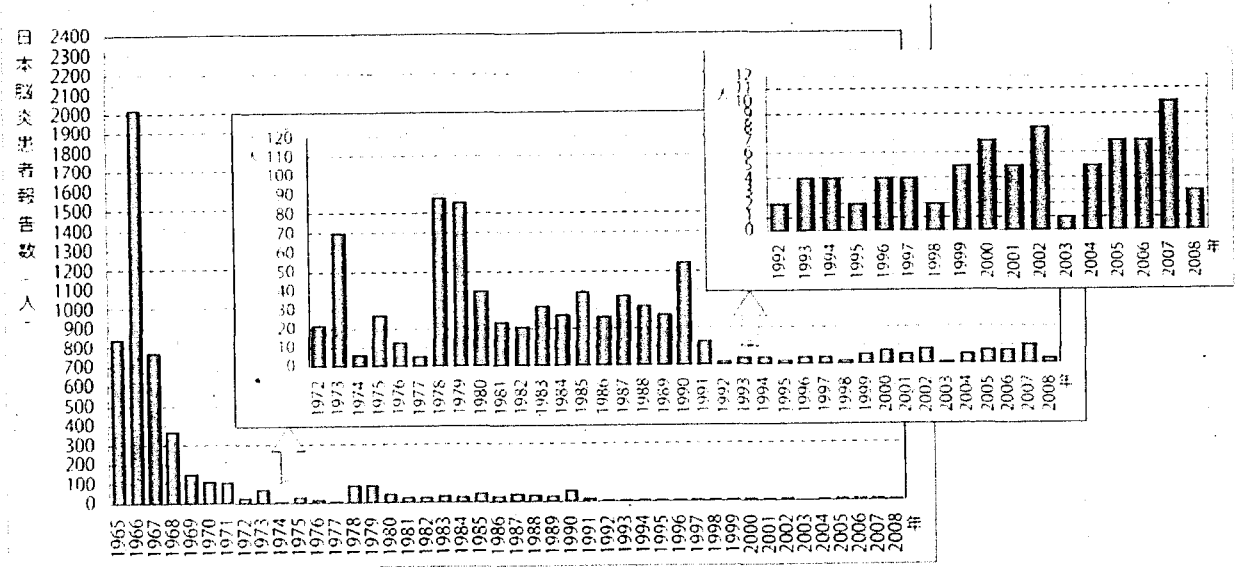


感染症をつかむ: 宿主と病原体と環境

- 宿主の感受性(予防接種歴、血清疫学)
- 病原体の蔓延(病原微生物検出)
- 媒介動物の状況
- 感染症の発生(感染症発生動向)
- 予防接種率と疾患の減少

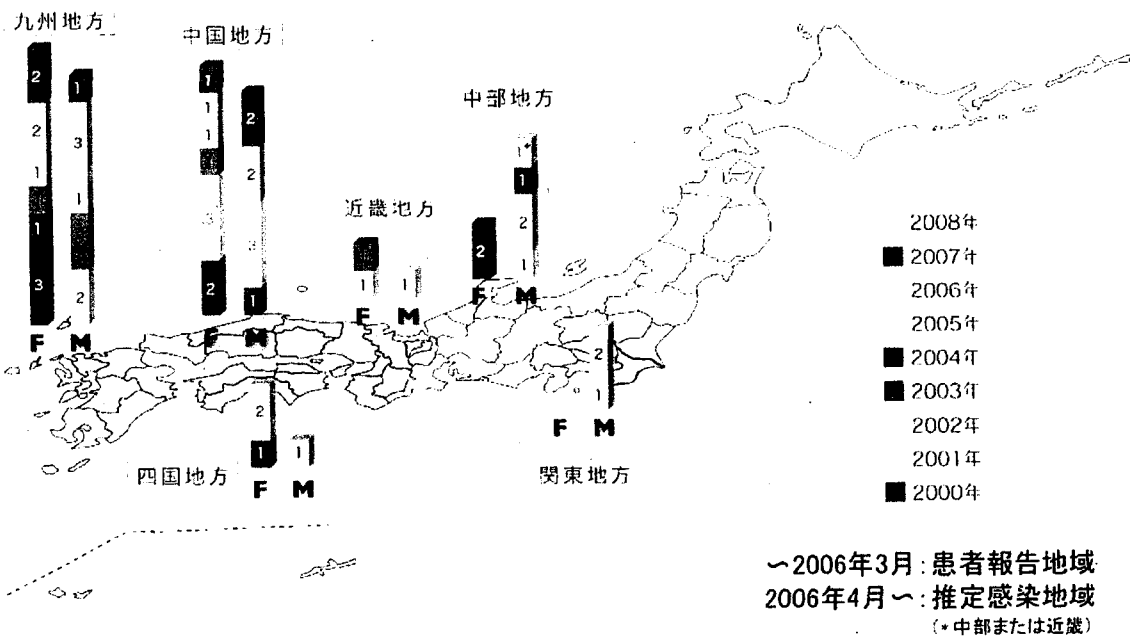
全国データ：日本脳炎を例に

図1. 日本脳炎患者報告数：感染症発生動向調査より(2007-2008年は暫定数)



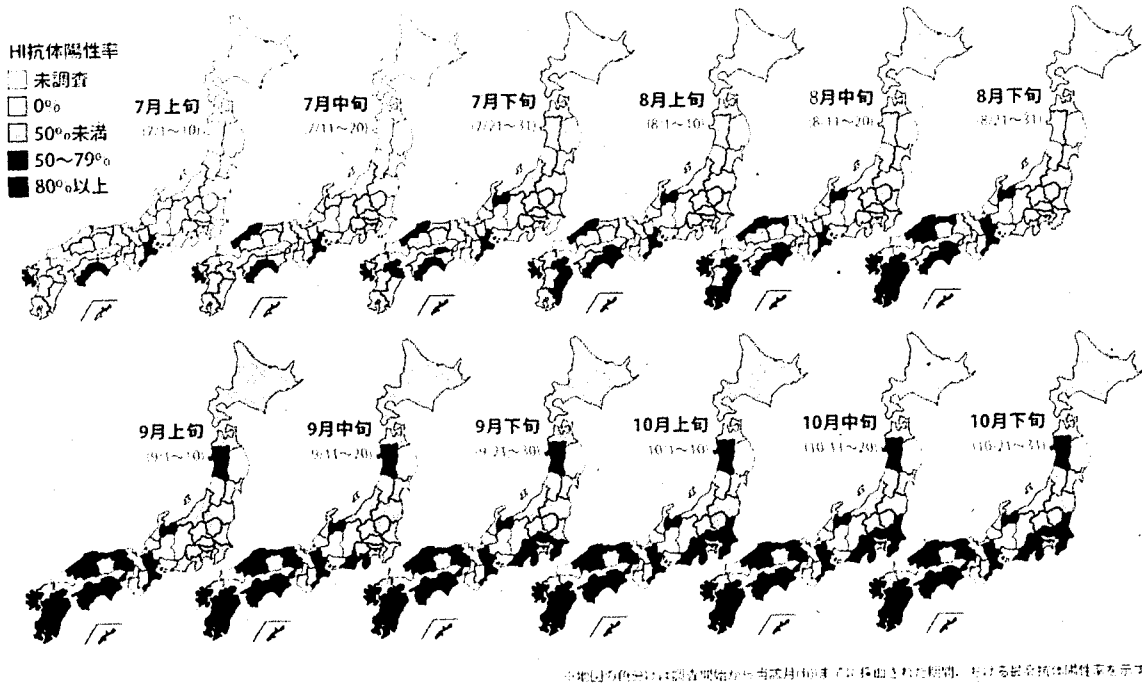
国立感染症研究所感染症情報センター

図7 地域別日本脳炎患者報告数(発病年別), 2000~2009年4月 (2009年5月末現在)
(感染症発生動向調査より)



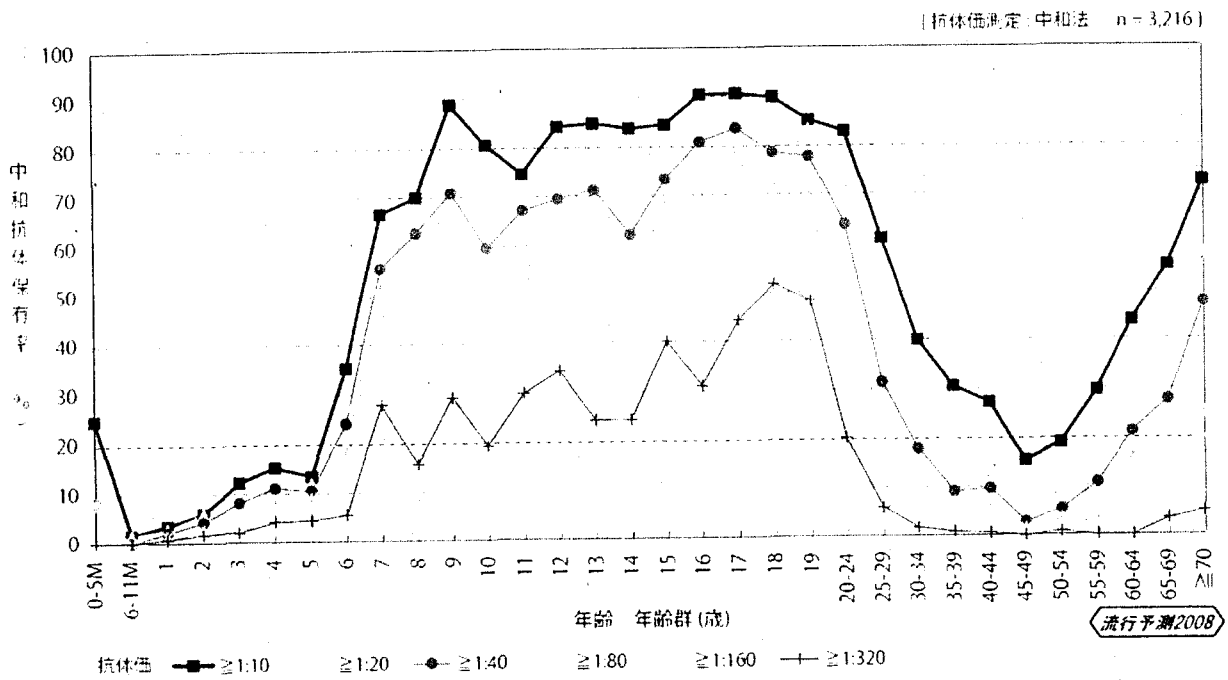
国立感染症研究所感染症情報センター

図3. プタの日本脳炎ウイルス感染状況, 2008年7~10月: 感染症流行予測調査より(暫定結果)



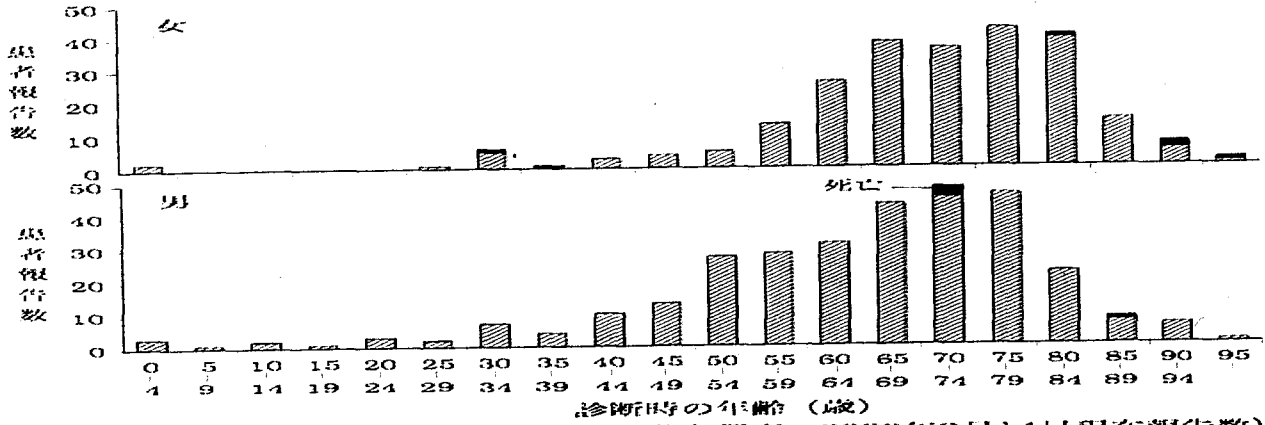
国立感染症研究所感染症情報センター

図5. 年齢/年齢群別の日本脳炎抗体保有状況, 2008年: 感染症流行予測調査より(暫定結果)



国立感染症研究所感染症情報センター

図3. 破傷風患者の性別年齢分布, 2004~2008年

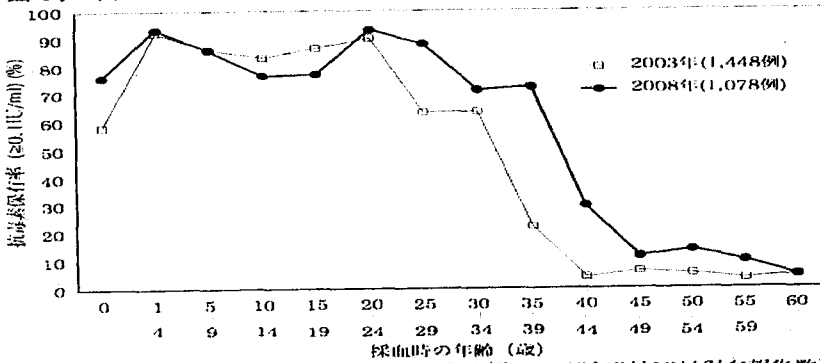


(感染症発生動向調査: 2009年2月14日現在報告数)

I A S R

Infectious Agents Surveillance Report

図5. 年齢別破傷風抗毒素保有状況, 2003年と2008年の比較



(2008年度感染症流行予測調査速報: 2009年2月19日現在報告数)

I A S R

Infectious Agents Surveillance Report

破傷風:
ワクチン歴の
ない世代に患
者が発生して
いる

予防接種の副反応調査

報告システム	調査対象	特徴 報告先
予防接種後健康状況調査	定期接種のみ	指定医療機関での定点観測 前向き調査 健康局
予防接種後副反応報告	定期接種のみ 重篤な副反応	全数報告 因果関係にこだわらない 健康局
医薬品副作用報告	任意接種も 重篤な副作用	医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 医薬食品局

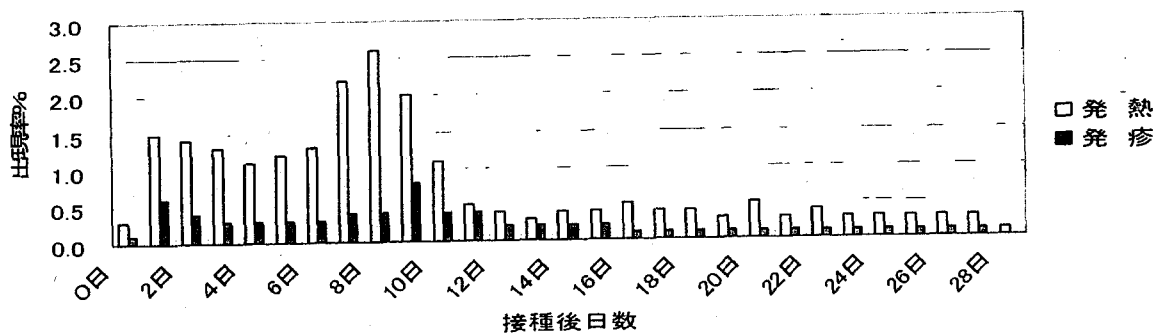
製造所の市販後調査

予防接種の副反応に関する厚労省情報

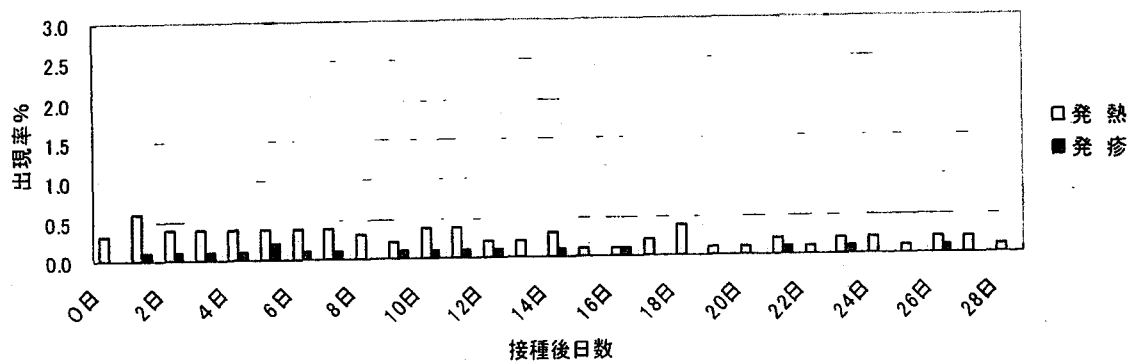
- 予防接種後副反応報告(H19年度)
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/04/s0401-5.html>
- 予防接種後健康状況調査(H19年度)
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/04/txt/s0401-2.txt>
- 疾病・障害認定審査会感染症・予防接種審査分科会審議結果(H21年9月30日)
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/09/s0930-18.html>

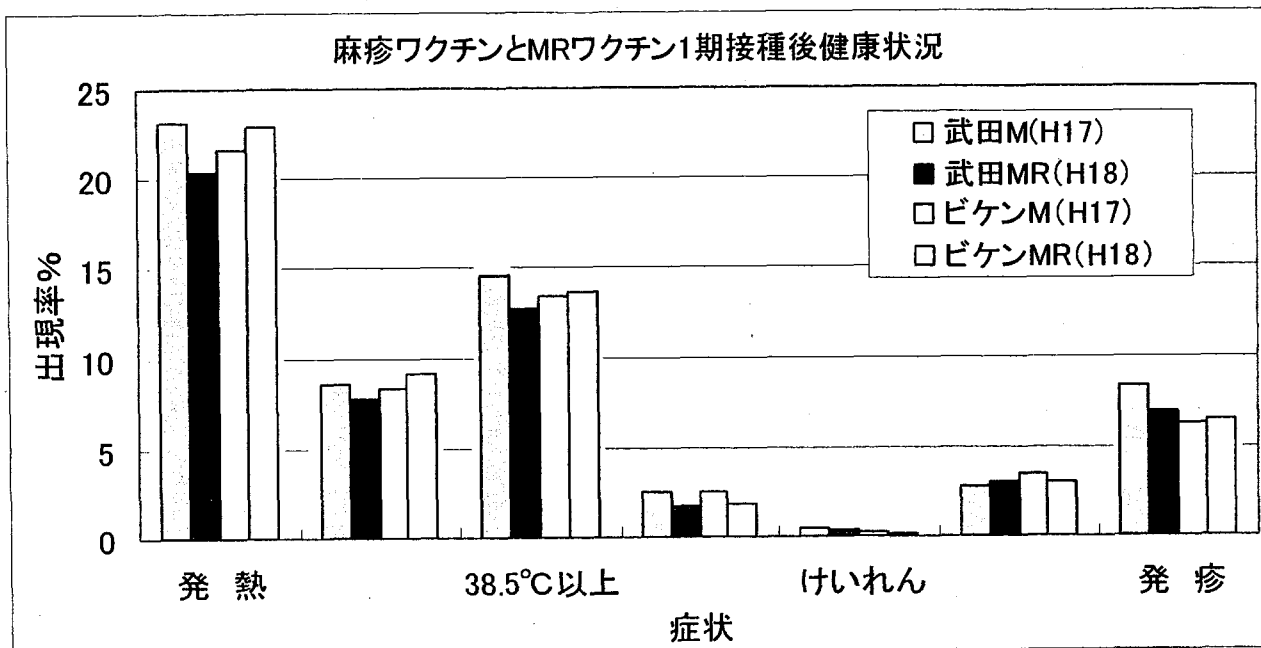
MRワクチン:H18年度

MRワクチン1期(5020人)



MRワクチン2期(3338人)





予防接種率

予防接種率調査には種々の方法がある

- 国は予防接種実施率(接種者/対象者)を公表
 - 全国集計の公表まで時間がかかりすぎる
 - 一部各市町村で対象者の計上法が異なる

•都道府県市町村別予防接種実施率(H20年度)

•<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>

•KW: 予防接種、作成: 厚労省→地域保健・健康増進事業報告→平成20年度地域保健・老人保健事業報告

- 予防接種台帳に基づく全数調査
 - 台帳がない、電子化されていない市町村が少なくない
- ランダム抽出による推計法
 - 研究班で実施
- 任意接種ワクチンの接種率 →把握が困難

厚労省への提言 (1)サーベイランス

- 迅速な集計、分析、公表が可能になるシステムにする
- データを閲覧しやすくする
- 分析結果を一般国民にわかりやすく示す
- データを研究に使いやすくする
- 研究結果を施策に反映させる
- 任意接種ワクチンも、より効率的に副反応や接種率を把握するシステムを考える

厚労省への提言 (2)基本施策

- 予防接種は健康の基本の一つであり、経済格差を解消する
- 対象疾患や実施要領等を、国際常識に適合させ、医学的な妥当性を高める
- 法は基本的なことを定め、事態の推移に応じて迅速で適切な施策をとれる体制をつくる
- ワクチンや予防接種に関する事柄について、専門家の意見を正當に反映させる